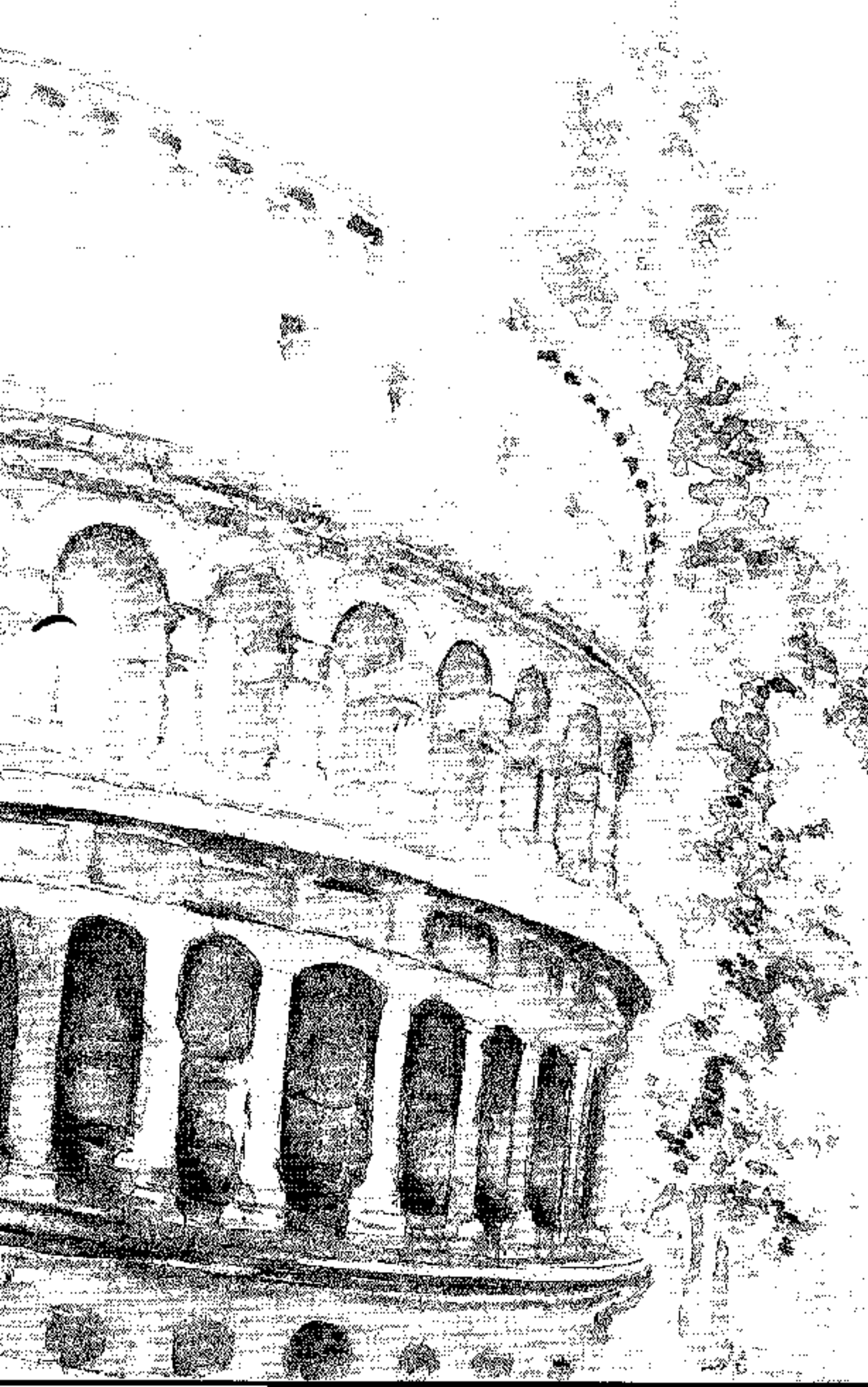


HAMAMATSU BACH SOCIETY

浜松バッハ研究会演奏会



日時：1998年4月5日(日)

16:00開演

会場：浜松市福祉文化会館ホール

主催：浜松バッハ研究会

後援：浜松市・浜松市教育委員会
(財)浜松市文化協会

代表のご挨拶

本日はお忙しい中、浜松バッハ研究会演奏会に御来場いただき、誠にありがとうございます。

私たちは10周年記念演奏会の「マイ受難曲」をはじめ、モーツァルトの「レクイエム」等大曲を演奏して参りましたが、今回はバッハの重要な作品群である教会カンタータを中心に小品を組み合わせで演奏いたします。

本日演奏いたしますカンタータ106番、131番は20歳代はじめの若きバッハが作曲したのですが、人間の罪や死、救いや永遠といったテーマが感受性豊かに表現され、バッハの200曲余りあるカンタータの中でも特に人気の高い曲です。モテト3番は「声楽のブランデンブルク協奏曲」とも言われるバッハのモテト6曲の中でも規模の大きい曲で、一般の合唱団でも取り上げられる機会の多い曲です。今回私たちは合唱技術のレベルアップをめざしこの曲に取り組みました。

そして浜松バッハ研究会創立以来初めての試みとして現代の作曲家アルヴォ・ペルトの作品に取り組みました。古典やグレゴリオ聖歌とも通じるところの多い作品ですが、私たちにとっては戸惑うこともありました。しかし現代に生きる私たちにとって、現代の素晴らしい作品と向き合い、「今」を表現することは必然といえるでしょう。今後も機会があれば近・現代の曲に挑戦したいと思います。

最後になりましたが、本日も来場下さいました皆様、常日頃より私達の活動を支えて下さっている皆様に会員一同心から感謝いたします。

浜松バッハ研究会代表 早川 徳次

上演曲目

A.ペルト：「私達はバビロンの河のほとりに座し涙した」

A.Pärt: An den Wassern zu Babel saßen wir und weinten''

J.S.バッハ：モテト「イエスよ、わが喜び」

J.S.Bach: Motette"Jesu, meine Freude" BWV227

休憩： Intermission

J.S.バッハ：カンタータ「神の時は最良の時」

J.S.Bach: Kantate"Gottes Zeit ist die allerbeste Zeit" BWV106

J.S.バッハ：カンタータ「深い淵から私は呼びかける、主よ、とあなたに」

J.S.Bach: Kantate"Aus der Tiefe rufe ich, Herr, zu dir" BWV131

出演者一覧

- ソプラノ -		合唱団	テノール	バス
井浦芙蓉子	磯貝真紀*	アルト 安藤美津恵	岡雅章	青木繁光
岡留美	今村陽子*	井戸恵子	川口強	安藤祐治
金子ますみ	岩瀬美知子*	小貫素子	武石薫	生駒修治
酒井貴巳子	榎並真喜子*	木山道子	戸島準一郎	磯貝光善
富安典子	岡田典子*	鈴木理恵	丹羽哲也	小貫勇作
丹羽多美子	杉浦紫*	武田清美	早川徳次	高森義之
深尾久子	早川実花*	野寄友佳子*	深尾正之	萩野潔
毛利優子	古山和恵*	長谷川明子	森光彦	長谷川正仁
渡辺美恵子	三宅ゆりの*	森上みどり		長谷部雅彦
		谷中理敏子		安井研一

*印：バッハのモテトでは主にソプラノ

[練習伴奏ピアニスト : 高木克子]

管弦楽団

バイオリン (BWV131)	北川靖子、	生駒尚子、	小沢規子、	中林尚之
第1ピオラ (BWV131)	木村英道、	秋元紀子、	井上麻里	
第2ピオラ (BWV131)	山内絵理、	岩瀬登美子、	小林勝	
チェロ	神農清志、	山内明、	小川美菜子(BWV106)	
コントラバス	田邑元一			
オーボエ (BWV131)	宮岡慎里			
リコーダー (BWV106)	徳永隆二、	山田有恒		
ファゴット (BWV131)	曾布川利貞			
オルガン	花井淑			

アルト独唱： 小田薫 (BWV106)

テノール独唱：西垣俊朗 (BWV106, 131)

バス独唱： 長谷川顯 (BWV106, 131)

指揮：三澤洋史

主な出演者のご紹介

指揮：三澤洋史

群馬県出身。国立音楽大学声楽科卒業。在学中より指揮者を志し、故山田一雄氏に師事。その後ベルリンに渡り、ベルリン芸術大学指揮科を首席で卒業。帰国後はオペラ指揮者としてデビュー。二期会音楽スタッフの中心的存在として活躍。二期会合唱団や東京オペラシンガーズを中心とした我が国の合唱指揮者としての地位は、今や不動のものとなっている。サバリッシュ、ホルスト・シュタイン、デュトワなど外来指揮者からの信頼も厚い。バッハに深く傾倒し「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」「口短調ミサ曲」などを全て暗譜でレパートリーに持つ。東京芸術大学で声楽科合唱と大学院オペラ科を講座として担当。バロックから現代まで音楽を伴うオーケストラ作品の全ての分野に精通する。

アルト独唱：小田薫

信愛学園（現・学芸）高等学校音楽科卒業、武蔵野音楽大学音楽部声楽科卒業。佐藤安子、岡崎雅明の両氏に師事。卒業後二期会合唱団に所属し、数多くのオペラやコンサートに出演。平成8年2月、浜松バッハ研究会の「マタイ受難曲」の演奏会にソリストとして出演。現在、新国立歌劇場合唱団団員。

テノール独唱：西垣俊朗

大阪音楽大学大学院修了。在学中より宗教曲に手を染め、カンタータ、オラトリオの演奏には欠かせないコンサート歌手として活躍。特にバッハの「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」等の“エヴァゲリスト歌い”として高く評価されている。1978・79・85年、名テノール E. ヘフリガー氏と「マタイ受難曲」で共演。1984年と85年には日本オラトリオ連盟のソリストとして、ヨーロッパ各地で演奏し好評を博す。またアルカディア協会の1989年夏のシンガポール演奏旅行と1990年夏のシンガポール、ヨーロッパ演奏旅行のソリストとして各地で好評を博した。オペラでは1976年、東京オペラ・プロデュース公演のロッシェニ「オリー伯爵」でデビューし、以後「放蕩息子」「スペインの時」「セヴィリアの理髪師」「ビヴァ・ラ・マンマ」などに出演。また関西二期会を代表するリリック・テナーの一人として「魔笛」「ドン・ジョバンニ」「セヴィリアの理髪師」「真夏の夜の夢」「こうもり」「コシ・ファントウツテ」などの主役を務めている。

昭和59年度神戸市文化奨励賞受賞。浦山弘三、E.ヘフリガーの両氏に師事。関西二期会会員、神戸音楽家協会会員、日本シューベルト協会同人。現在、大阪音楽大学講師。アルカディア室内合唱団副指揮者・ヴォイストレーナー。平成6年度兵庫県芸術奨励賞受賞。

バス独唱：長谷川顯

香川県生まれ。国立音楽大学声楽家卒業。二期会合唱団に15年間在籍し、年間40本に及ぶオペラ公演や、多数の演奏会に出演、内外の著名な指揮者、演出家、ソリストに接することで舞台の表裏ともに貴重な経験を積み重ねた。ソリストとして、オペラでは「ボエーム」のホルリーネ、二期会「ワルクキューレ」フンディング、「魔笛」のザラストロ、などのバスの主要な役を演じている。また一方では、バッハ「口短調ミサ」、「マタイ受難曲」、モーツァルト「レクイエム」、そしてフォーレ「レクイエム」などキリスト教会音楽のソリストとしても活躍している。二期会会員。

コンサート・ミストレス：北川靖子

幼少より父に手ほどきを受け、後 W. シュタフォン・ハーゲン教授に師事。東京芸術大学卒業後、ウィーン国立アカデミーにて F. サモヒール、F. ホレチェックの両教授に師事。1975年、同大学を全教授一致の最優秀賞で卒業。1976年から1984年までハンブルク交響楽団、ハンブルク室内合奏団のコンサート・ミストレスを務める。1985年12月からピアノの北川暁子と「ドゥオの夕べ」を開催。ソロリサイタルの他、チェロの千本博愛、北川暁子とピアノ三重奏団セルヴェ・トリオとして演奏活動を行っている。

オルガン：花井淑

名古屋音楽大学音楽学部器楽科卒業。オルガンを住山玖爾子、本田七瀬、F. ボーンの各氏に師事。また、Z. サットマリー、A. シェーンシュテット、H. フォーゲルの各氏によるオルガン・マスタークラスに参加。1982～1986年、名古屋音楽大学嘱託研究員を経て、現在、名古屋・カトリック五反城教会オルガニスト、五反城教会オルガニスト養成コース講師。四日市・KAIEN'S HALL "ムーシケ" 専属オルガニスト。古楽アンサンブル<アーベント・ムジーク>メンバー、ソリスト及び通奏低音奏者として活躍中。日本オルガン研究会、日本オルガニスト協会会員。浜松バッハ研究会演奏会には1996年の創立10周年記念「マタイ受難曲」全曲演奏会、1997年の「レクイエム」演奏会に出演。
*本日使用するパイプ・オルガンは高山市在住のオルガン製作家、田尻隆二氏作のコンティヌオ・ポジティブです。

浜松バッハ研究会管弦楽団

浜松交響楽団、浜松室内楽愛好会、ソナスアンサンブル、積志リコーダーカルテットなどから、バッハおよびバロック音楽をこよなく愛する有志が集い、バッハ研究会公演の度に組織される。少ない練習にもかかわらず、レベルの高いアンサンブルで好評を得ている。

バッハと信仰 / 三澤洋史

やっとアクトゥス・トラギクスを指揮することが出来て私は幸せである。アクトゥス・トラギクスとはカンタータ106番の事で、日本語で言うと「哀悼の式」という意味である。

思えば二十数年前、カンタータというものをひとつ知っておこうとレコード屋に行っておらずっぽうに買ったのがカール・リヒターの指揮するこの曲であった。家に帰ってきて針をおろして驚いた。スピーカーから聞こえてきたのは、まるで異次元の世界から響いてくるような摩訶不思議な音。ソナティーナの二本のブロック・フレーテが半音でぶつかりあうところは、さながら祭壇のろうそくのゆらめき。そして合唱が始まると歌詞の内容にそって音楽が自在に変化し、聖句と音楽の融合が比類なき高さで成し得ている。レコードの解説を読むと、この曲はどうやらバッハの初期の作品らしい。しかし未熟な感じはどこにも見られない。むしろ私がこれまで聴いたどの曲とも違った独特な音空間が存在しており、バッハの独創性に改めて脱帽した。

その後、私は沢山のバッハのカンタータを知った。しかし残念ながらアクトゥス・トラギクスほど衝撃的な作品には二度と出会わなかった。何故なら中期以後の彼の作風は、全て例外なくイタリアのオペラの手法を取り入れた決まりきった形式によって書かれているのだ。規模の大きな合唱曲で始まり、レシタティーヴォ、アリアが交互に続き、最後はシンプルなコラールで終わる、と言った具合である。これはこれで悪くないし、「マタイ受難曲」などの大曲も、形式的にはその延長にあるので、その形式自体を批判するつもりは毛頭ない。ただアクトゥス・トラギクスの持つ、何とというか、形式であって形式でないような、それでいて全てが分かち難いような、こんな独創性は、他の曲には望むべくもないのである。

例えば「我らは神のうちに生き、存在する」という言葉は生き生きとしたコロラトゥーラで表現され、「神が望めば、ふさわしい時に、我らは神のうちに死す」という聖句は荘重な **Adagio** で表わされている。言葉で言ってしまうと聞き取りにくいけれど、それがあまりにも見事に自然に行われている故に、果たしてこれは音楽的言語世界なのか、言語的音楽世界なのか区別がつかない。

また合唱が減七度音程を挟ったアルカイックなフーガ「それは旧き契約、人よお前は死ぬべきである」を歌っていると、突然全く無関係のようにソプラノが「そう、そう、イエスよ来て下さい」と明るい新約世界観を歌い始める。その対比の面白さ！ それだけではない。それを更にブロック・フレーテが「私の事は神に委ねる」のコラールのメロディーで彩って行く。こうした管弦楽で奏されるコラールは、わが国の聴衆にはなじみが薄いかもしれないが、当時のドイツの信者達ならば、メロディーを聞きさえすれば、歌詞が口をついて出てくるほど生活の中に入り込んでいた。それをバッハは歌われない歌詞として暗示的な意味を込めて曲の中に盛り込む。かくしてこの箇所では、三つの異なったテキストが同時進行する。最後にソプラノがコロラトゥーラで引き延ばされ、新約的希望の勝利を告げる。ここでの劇的緊張感は、どんなオペラも及ばないほどである。

おそらくバッハは、これらの聖句を自分で選び出し構成したに違いない。リヒャルト・ワーグナーが自分で台本を書いたからこそ、「トリスタンとイゾルデ」のような音楽化されたショーペンハウアー的厭世哲学を表現し得たように、ここで表現されているのは音楽化された「死と関わってゆく者の神学」である。人の前に立ち塞がる死の厳粛さと死への恐怖。全ての者はいつか必ず死ぬ。この逃れる事の出来ない現実。だがアクトゥス・トラギクスのコラールは語る。「私は神の御旨のうちに、平和と歓喜を伴って旅立つ」。同時にバスのソリ

ストは、十字架上でキリストが盗賊に向かって約束した言葉を語る。「今日おまえは私と一緒にパラダイスにいるであろう」。すなわちキリストへの信頼と神への信仰が、死の恐怖を希望と喜びに変え、死を敗北から勝利へと変えるのである。

以上アクトゥス・トラギクスの事ばかり書いてしまったが、今回とりあげた曲はどれも、通常のバッハの作曲形式から外れているものばかりである。カンタータ131番も、106番の作風の延長上にある初期カンタータである。106番よりも親しみ易く、有名なトッカータとフーガ：二短調もそうであるが、バッハは若い時は意外にロマンチストだったんだなと感じさせる名曲である。

モテット「イエス、わが喜び」は本当はもっと紙面をさきたい曲だった。これはキリスト教神学、とりわけパウロ神学の中核であるローマ書第8章が「イエス、わが喜び」のコラールと交互に語られる、いわゆるコラール注解つきローマ書講義のようなものとなっている。ここにおいてもアクトゥス・トラギクスのように、バッハがいかに深くキリスト教の教義を理解しており、厚い信仰心を持って内面から創作を行っていたかがわかる。

ヨハネが彼の第一の手紙で言っている「神は愛です。愛にとどまる人は、神のうちにとどまり、神もその人のうちにとどまってください。」という、一見簡単に思える言葉の深さを真に理解する為には、霊性に目覚めていなければならない。同じようにバッハの音楽の偉大さは、音楽の向こうに隠れているのである。

上演曲目解説

A.ペルト：「私達はバビロンの河のほとりに座し涙した」

A.Pärt: An den Wassern zu Babel saßen wir und weinten"

作曲者 Arvo Pärt : 1935年9月11日、エストニア生まれ。1980年以後ウィーンに移住しオーストリアに帰化。グレゴリオ聖歌の旋律の影響を受けた、素朴な雰囲気の宗教的作品が好評。

作品について : 1976年から84年にかけて作曲された、旧約聖書の詩篇第137篇（バビロン王国に囚われの身となったイスラエル人たちの悲しみの詩）を元にした、歌詞のない合唱曲。

編成 : 合唱4部、オルガン（本日はチェロ、コントラバスも加わります）

使用楽譜 : universal edition

J.S.バッハ：モテト「イエスよ、わが喜び」

J.S.Bach: Motette "Jesu, meine Freude" BWV227

用途 : 1723年7月18日、ライプツィヒの郵便局長夫人、ヨハンナ・マリア・ケースの埋葬式？

基本コラール : 「イエスよ、わが喜び」（1650）J.フランク作詞、J.クリューガー作曲

その他の歌詞 : 新約聖書 - ローマの信徒への手紙 [以下「ロマ書」と略]、第8章より

編成 : 合唱5部（S, S, A, T, B : 必要に応じて器楽が補強。本日の演奏にはオルガン、チェロ、コントラバスが加わります）

構成 : 全11曲、奇数番曲6曲がコラール全6節、偶数番曲5曲がロマ書の句に基づく自由曲からなる組曲風で、バッハのモテトの中ではむしろ異色。第6曲を中心とした対称構造（第1・11曲がほとんど同じ編曲、第2・10曲の相似、第4・8曲が3声）であることは有名だが、これはコラールの（第1節の）最初と（第6節の）最後の歌詞が"Jesu, meine Freude"であることから得られた着想と思われる。多くの曲で、音楽による言葉の意味の修飾が顕著。

主題の関連 : 第2・6・10曲の多旋律主題と、第4・8曲の最初の旋律は、コラール第1行の旋律の転回形（音の上下関係を逆転した形）が元になっている可能性が高い。

使用楽譜 : Bärenreiter（新バッハ全集準拠）

歌詞対訳

1. Choral-1

Jesu, meine Freude,
meines Herzens Weide,
Jesu, meine Zier,
ach wie lang, ach, lange
ist dem Herzen bange,
und verlangt nach dir!
Gottes Lamm, mein Bräutigam,
außer dir soll mir auf Erden
nichts sonst Liebbers werden.

1. コラール第1節

イエスよ、私の喜び、
私の心の牧場、
イエスよ、私の誉れ、
ああ、どんなに長く、どんなに長く
不安な心で
あなたを求めたことが。
神の小羊、私の花婿、
あなた以外では私にとってこの世には
愛しい方はいないだろう。

2. Römer 8.1

Es ist nun nichts Verdammliches
an denen, die in Christo Jesu sind,
die nicht nach dem Fleische wandeln,
sondern nach dem Geist.

2. ロマ書 8.1

今や罪に定められることはない。
救い主イエスの内に居る者は。
彼らは肉ではなく、
霊にしたがって進むからだ。

3. Choral-2

Unter deinem Schirmen
bin ich vor den Stürmen
aller Feinde frei.
Laß den Satan wittern,
laß den Feind erbittern,
mir steht Jesus bei!
Ob es itzt gleich kracht und blitzt,
ob gleich Sünd und Hölle schrekken:
Jesus will mich decken.

4. Römer 8.2

Denn das Gesetz des Geistes,
der da lebendig machet in Christo Jesu,
hat mich frei gemacht von dem Gesetz
der Sünde und des Todes.

5. Choral-3

Trotz dem alten Drachen,
Trotz des Todes Rachen,
Trotz der Furcht darzu!
Tobe, Welt, und springe;
ich steh hier und singe
in gar sichrer Ruh!
Gottes Macht hält mich in acht;
Erd und Abgrund muß verstummen,
ob sie noch so brummen.

6. Römer 8.9

Ihr aber seid nicht fleischlich,
sondern geistlich,
so anders Gottes Geist in euch wohnt.
Wer aber Christi Geist nicht hat,
der ist nicht sein.

7. Choral-4

Weg mit allen Schätzen,
du bist mein Ergötzen,
Jesu, meine Lust!
Weg ihr eitlen Ehren,
ich mag euch nicht hören,
bleibt mir unbewußt!
Elend, Not, Kreuz, Schmach und Tod
soll mich, ob ich viel muß leiden,
nicht von Jesu scheiden.

3. コラール第2節

あなたのご加護のもと
私はあらゆる敵の襲撃から
免れる。
サタンが荒れ狂おうとも
敵が猛り立つとも
私の側にはイエスがいらっしゃる。
たとえ雷が鳴り稲妻が走り、
罪と地獄が脅かそうとも、
イエスは私を庇ってくださる。

4. ロマ書 8.2

救い主イエスに命をもたらず霊の法則が、
罪と死の法則から私を解放したからだ。

5. コラール第3節

古い伝説の竜よ、
死の淵よ、
そして恐怖よ、来るなら来い。
荒れ狂え、この世よ、砕け散れ、
私はここに立って歌う。
全く揺るぎない安らぎの中で。
神の御力は私を顧みられる。
現世も地獄も黙らざるをえない。
たとえ今は猛り狂うとも。

6. ロマ書 8.9

あなたがたは肉ではなく
霊の支配下にいる。
神の霊があなたがたの内に宿っている限りは、
しかしキリストの霊を持たない者は、
キリスト者ではない。

7. コラール第4節

すべての宝よ、去れ。
あなた（イエス）こそ私の楽しみ、
イエスよ、私の生きる喜び。
むなしい名誉よ、去れ。
おまえの言うことなど聞かまい。
おまえのことは知らずにいさせてくれ。
悲惨、困難、十字架、屈辱と死に、
どれほど苦しいとも、
私をイエスから引き離すことはできない。

8. Römer 8.10

So aber Christus in euch ist,
so ist der Leib zwar tot um der Sünde willen;
der Geist aber ist das Leben
um der Gerechtigkeit willen.

9. Choral-5

Gute Nacht, o Wesen,
das die Welt erlesen,
mir gefällt du nicht!
Gute Nacht, ihr Sünden,
bleibet weit dahinten,
kommt nicht mehr ans Licht!
Gute Nacht, du Stolz und Pracht!
Dir sei ganz, du Lasterleben,
gute Nacht gegeben.

10. Römer 8.11

So nun der Geist des, der Jesum von den Toten
auferwekket hat, in euch wohnet,
so wird auch derselbige,
der Christum von den Toten auferwekket hat,
eure sterbliche Leiber lebendig machen

um des willen, daß sein Geist in euch wohnet.

* 下線部：旧全集版では"sterblichen"

11. Choral-6

Weicht, ihr Trauergeister,
denn mein Freudenmeister,
Jesus, tritt herein.
Denen, die Gott lieben,
muß auch ihr Betrübten
lauter Zucker sein!
Duld ich schon hier Spott und Hohn,
dennoch bleibst du auch im Leide,
Jesu, meine Freude.

* 下線部：旧全集版では"Wonne"「至福」、J.フランクの原詩では"Freude"「喜び」

8. ロマ書 8.10

しかし救い主があなたがたの内におられるなら、
体は罪によって死んでも、
霊は義によって命となる。

9. コラール第5節

さらば、生き様、
この世が選んだ生き様よ、
おまえは私の気を引くことはない。
さらば、罪よ、
離れたままでとどまれ。
陽の目をみることはないように。
さらば、尊大と虚飾よ。
自堕落な生活よ、おまえには、
永遠の別れを言い渡そう。

10. ロマ書 8.11

もしイエスを死者の中から復活させた方の霊が、
あなたがたの内に宿るなら、
同様に、
救い主を死者の中から復活させた方は、
あなたがたの死ぬべき体も
生かしてくださるだろう。
あなたがたの内に宿るその霊によって。

11. コラール第6節

退け、悲しみの霊ども、
私の喜びの主、
イエスがお入りくださるのだから。
神を慕う者には、
悲しみもまた
砂糖のような甘いものとなるだろう。
たとえ私がここで嘲りと辱めを受けても、
その苦しみの中であなたはとどまりたまえ。
イエスよ、私の喜びとして。

J.S.バッハ：カンタータ「神の時は最良の時（哀悼の式）」

J.S.Bach: Kantate "Gottes Zeit ist die allerbeste Zeit (Actus tragicus)" BWV106

用途：1707年8月14日、母方の叔父 T.レンマーヒルト [8月10日死亡] の葬儀用？

歌詞：第2曲 a - 使徒行伝17.28、b - 詩篇90.12、c - イザヤ書38.1、
d - シラ書14.17とヨハネ黙示録22.20、コラール - 「われ、わがことを神に委ねたり」

第3曲 a - 詩篇31.6、b - ルカ23.43、

コラール - M.ルター「心安らかに喜んで私は往こう」

第4曲コラール - A.ロイスナー「私はあなたに依り頼む、主よ」

編成：リコーダー2、ヴィオラ・ダ・ガンバ（本日はチェロで代用）2、通奏低音（チェロ、
コントラバス、オルガン）、独唱（A, T, B）、合唱4部

構成：「バッハと信仰ノ三澤洋史」（5～6頁）をご参照ください。

使用楽譜：Bärenreiter（新バッハ全集準拠）、ただし調性は旧全集準拠にて演奏

歌詞対訳

1. Sonatina (Instrumental)

1. ソナティーナ（器楽のみ）

2-a. Chor

**Gottes Zeit ist die allerbeste Zeit.
In ihm leben, weben und sind wir,
solange er will.**

**In ihm sterben wir zur rechten Zeit,
wenn er will.**

* 下線部：旧全集版ではそれぞれ"so lange", "zu rechter"

2-b. Arioso (Tenore solo)

Ach, Herr, lehre uns bedenken,
daß wir sterben müssen,
auf daß wir klug werden.

2-c. Arie (Basso solo)

Bestelle dein Haus!
Denn du wirst sterben
und nicht lebendig bleiben.

2-d. Chor und Arioso (Sop:Italic)

**Es ist der alte Bund:
Mensch, du mußt sterben!
Ja, komm, Herr Jesu, komm!**

3-a. Arie (Alto)

In deine Hände befehl ich meinen Geist;
du hast mich erlöst,
Herr, du getreuer Gott.

3-b. Arioso (Basso solo)

und Choral (Alto:Bold)

Heute wirst du mit mir im Paradies sein.
**Mit Fried und Freud ich fahr dahin
in Gottes Willen,
Getrost ist mir mein Herz und Sinn,**

2-a. 合唱

神の時は最良の時である。
神のうちに私たちは生き、動き存在する、
神が望まれる限り。
神のうちに私たちはしかるべき時に死ぬ、
神が望まれる時。

2-b. アリオソ（テノール独唱）

ああ、主よ、われらに教えたまえ、
われらは死ぬ定めであり、
ゆえにわれらは賢くあるべきことを。

2-c. アリア（バス独唱）

あなたの家を整えなさい。
あなたはいずれ死に、
生き長らえることはないのだから。

2-d. 合唱とアリオソ（ソプラノ：斜体）

古い掟がある。
人よ、おまえは死なねばならない、という。
さあ、来たれ、主イエスよ、来たれ。

3-a. アリア（アルト独唱）

私は私の魂をあなたの手に委ねる。
あなたは私を贖ってくださった。
主よ、真の神よ。

3-b. アリオソ（バス独唱）

とコラール（アルト：太字）

今日あなたは私と共に天国にいるだろう。
心安らかに喜んで私は往こう、
神の御心のままに。
私の心と思いは慰められるだろう、

sanft und stille.
Wie Gott mir verheißen hat:
Der Tod ist mein Schlaf worden.

優しく静かに。
神が私に約束されたように、
死は私の眠りとなるだろう。

4. Chor

Glorie, Lob, Ehr und Herrlichkeit
sei dir, Gott Vater und Sohn bereit,
dem heiligen Geist mit Namen!
Die göttlich Kraft
macht uns sieghaft
durch Jesum Christum, Amen.

* 下線部：旧全集版では"mach' "

4. 合唱

栄光と賛美と栄誉と主権が
あなた、神なる父と来たるべき子と、
御名と共にいます聖霊にありますように。
神の力が
私たちに勝利をもたしますように。
イエス・キリストによって、アーメン。

J.S.バッハ：カンタータ「深い淵から私は呼びかける、主よ、とあなたに」

J.S.Bach: Kantate "Aus der Tiefe rufe ich, Herr, zu dir" BWV131

用途：1707年7月、ミュールハウゼンの大火災後、聖マリア教会での悔い改めの礼拝にて？

歌詞：詩篇130篇（「七つの改悛詩篇」のひとつ）、

B.リンクヴァルト「主イエスキリスト、汝いと高き宝」第2・5節（第2・4曲）

編成：オーボエ、ファゴット、ヴァイオリン1部、ヴィオラ2部、通奏低音（チェロ、
コントラバス、オルガン）、独唱（T, B）、合唱4部

構成：前曲同様、イタリア・オペラ風のレチタティーヴォとアリアに相当する明確なものがない。
またビオラ2部という編成（他にBWV4など）や、独唱曲にコラール旋律が絡むのもバッハの
初期のカンタータの特徴のひとつ。第1・3・5曲はオルガン音楽の「前奏曲とフーガ」的な
構成となっている。

使用楽譜：Breitkopf（新バッハ全集版は未刊行）

歌詞対訳

1. Chor

Aus der Tiefe ruf (/ rufe) ich,
Herr, zu dir.
Herr, höre meine Stimme,
laß deine Ohren merken
auf die Stimme meines Flehens!
(Attacca)

1. 合唱

深い淵から私は呼びかける、
主よ、とあなたに。
主よ、私の声を聞いてください、
あなたの耳が私の願いの声に
気付いてくださいますように。
（第2曲に切れ目なしに続く）

2. Arioso (Basso solo) und Choral (Soprano:Bold)

So du willst, Herr, Sünde zurechnen,
Herr, wer wird bestehen?
Erbarm dich mein in solcher Last,
nimm sie aus meinem Herzen,
dieweil du sie gebüßet hast
am Holz mit Todesschmerzen,
Denn bei dir ist die Vergebung,

2. アリオソ（バス独唱） とコラール（ソプラノ：太字）

もしあなたが、主よ、罪に目をとめたならば、
主よ、誰が耐えられるだろうか。
こんな重荷を負った私を憐れんでください、
その荷を私の心から取り除いてください、
あなたはそれを贖ってくださったからです、
死の苦しみが伴う十字架上で。
しかしあなたに赦しがあるから、

auf daß ich nicht mit großem Weh
daß man dich fürchte.
in meinen Sünden untergeh,
noch ewiglich verzage.

3. Chor

Ich harre des Herrn,
meine Seele harret,
und ich hoffe auf sein Wort.

4. Arie (Tenore solo) und Choral (Alto:Bold)

Meine Seele wartet auf den Herrn
Und weil ich denn in meinem Sinn,
wie ich zuvor geklaget,
auch ein betrübter Sünder bin,
den sein Gewissen naget,
von einer Morgenwache bis zu der andern.
und wollte gern im Blute dein
von Sünden abgewaschen sein
wie David und Manasse.

5. Chor

Israel, hoffe auf den Herrn;
denn bei dem Herrn ist die Gnade
und viel Erlösung bei ihm.
Und er wird Israel erlösen
aus allen seinen Sünden.

ゆえに私は大変な痛みと共に
人はあなたを恐れる。
私の罪に沈むことなく、
永遠に打ちひしがれることもない。

3. 合唱

私は主を待ち望む。
私の魂は待ち望む。
そして私は主の御言葉に望みを持つ。

4. アリア (テノール独唱) とコラル (アルト:太字)

私の魂は主を待ち望む、
そして私はわが心の内で、
かつて嘆いたように、
罪に悲しみ
その良心は罪をさいなむ、
夜警が交替までの時(朝)を待つように。
できることならあなたの血で
罪から浄められますように。
ダヴィデとマナセのように。

5. 合唱

イスラエルよ、主に望みを抱け。
主には恵みがあり、
また豊かな贖いがあるからだ。
そして主はイスラエルを
あらゆる罪からあがなってくれるだろう。

参考：リリンク指揮「バッハ/モテト全集」(COCO-7479~80) 添付の樋口隆一氏の解説と対訳
リリンク指揮「バッハ/教会カンタータ全集」(OP-7243) 高野紀子氏の対訳
鈴木雅明指揮「バッハ/カンタータ大全集第2巻」(CD 781)BWV106：礒山雅氏の解説と対訳

* 「上演曲目解説」の部分に関するご質問・ご意見などは萩野 (053-475-5649、E-mail: hagino@emi.yamaha.co.jp) へお寄せください。

浜松バッハ研究会演奏活動年譜

主催公演

上演日	上演曲目	指揮	上演会場
1985.12.26	バッハ「クリスマス・オラトリオ」第1～3部	河野周平	遠州栄光教会
1986. 3.28	バッハ「マタイ受難曲」朗読と抜粋	河野周平	遠州栄光教会
1986.12.22	バッハ「クリスマス・オラトリオ」第1～3部	河野周平	遠州栄光教会
1987. 4.13	バッハ「マタイ受難曲」朗読と抜粋	河野周平	遠州栄光教会
1988. 3.21	バッハ「マタイ受難曲」一部割愛	河野周平	福祉文化会館
1988.12.26	バッハ「クリスマス・オラトリオ」第4～6部	河野周平	遠州栄光教会
1990.10. 7	バッハ「ミサ曲口短調」	三澤洋史	福祉文化会館
1990.12.16	バッハ「クリスマス・オラトリオ」第1～3部	三澤洋史	遠州栄光教会
1991. 8.12	バッハ「ヨハネ受難曲」朗読と合唱	三澤洋史	龍山村森林文化会館
1992. 3.22	バッハ「ヨハネ受難曲」	三澤洋史	福祉文化会館
1993. 3.21	ヘンデル「メサイア」	三澤洋史	福祉文化会館
1994. 6.12	「無伴奏合唱への誘い」BWV225/229他	三澤洋史	遠州栄光教会
1995. 1.22	「ニューイヤーコンサート」バッハ名曲選他	三澤洋史	遠州栄光教会
1996. 2.18	バッハ「マタイ受難曲」全曲	三澤洋史	アクトシティ中ホール
1997. 2.16	バッハ「マニフィカート」 モーツァルト「レクイエム（バイヤー版）」	三澤洋史	アクトシティ中ホール

合同・協賛公演

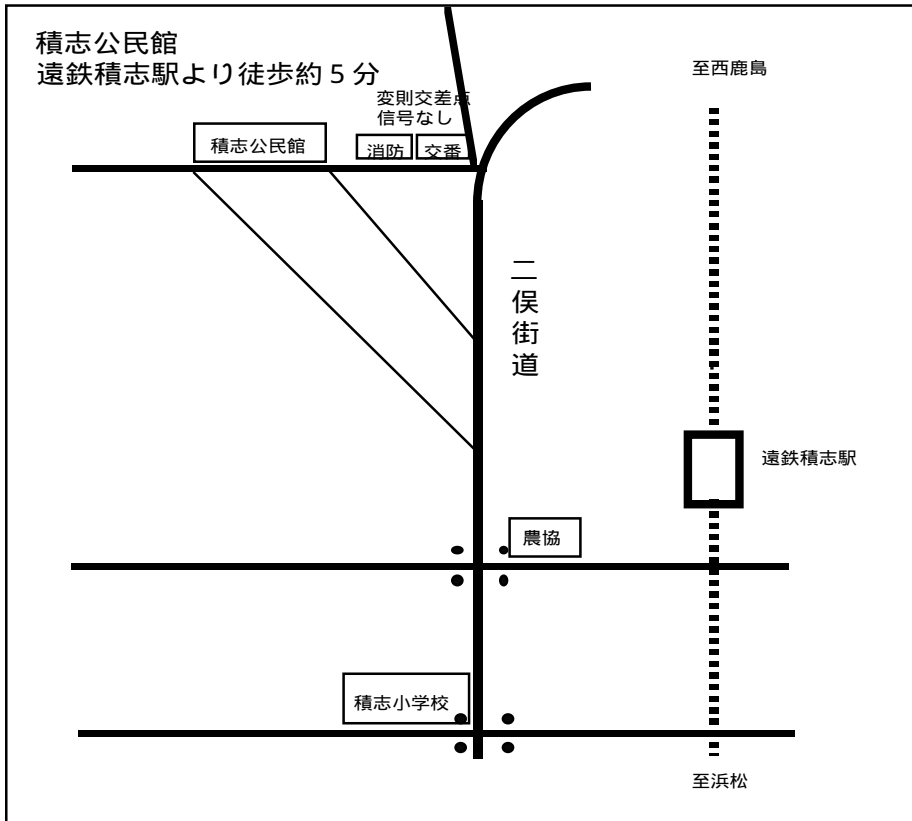
上演日	上演曲目および内容	上演会場
1986. 9.15	浜松クリスチャン・クワイアとの合同演奏会 モーツァルト：Sancta Maria K273, Regina Coeli K276 S. 藤井多恵子、Pf. 鈴木敦子、Orch. カペラ・アカデミカ	遠州栄光教会
1986.10.19	「ムーンライト・コンサート」協賛	天竜・月光山海蔵寺
1987. 9.20	教会音楽コンサート協賛 - BWV56/80 Br. 今仲幸雄	遠州栄光教会
1987.10. 9	「ムーンライト・コンサート」協賛	天竜・月光山海蔵寺
1988. 3. 5	正泉寺「山寺音楽会」協賛 バッハ「マタイ受難曲」コラールとその原曲	引佐郡井伊谷正泉寺
1991. 3.17	瑞穂会ピアノ発表会賛助出演 モーツァルト：12番ミサよりキリエとグロリア、Ave verum corpus、 バッハ：BWV140よりコラール	クリエート浜松
1991. 6.30	掛川市駅南学習センター美感ホールのオープニング モーツァルト：Sancta Maria K273, Regina Coeli K276, Ave verum corpus Orch. カペラ・アカデミカ	掛川市美感ホール
1991.12.23	市政80周年記念ラートハウス・コンツェルト バッハ「クリスマス・オラトリオ」抜粋、Orch. カペラ・アカデミカ	浜松市役所ホール

合唱団員募集

浜松バッハ研究会

浜松バッハ研究会も96年上演の「マタイ受難曲」のための練習以来団員数も増え、創立以来のアウトホームな雰囲気を保ちつつも、新たな飛躍を遂げ始めました。最近では、電子音源を利用した仮想オーケストラ伴奏との合わせ練習や音取り教材提供など、ユニークな試みも行っていきます。今回は2ヶ年計画の一環としてバッハのモテト・カンタータなどを中心に取り組みましたが、次回はその締めくくりとして、久々にバッハの晩年の大作「ミサ曲口短調」BWV232を再演する予定です。このような私たちの活動に興味をお持ちの方は、ぜひ一度練習場までお越しください。

- 今後の活動** 「ミサ曲口短調」 - 99年10月上演予定
- 練習場** 積志公民館（下地図）ほか
- 練習日時** ・毎週土曜日 19:00～21:30
・月1回三澤先生の練習 主に日曜日 13:00～17:00
- 会費** 月額2500円（学生2000円、高校生1500円）
- 連絡先** 早川徳次（ 053-472-0341[FAX可]、E-mail: tmmmhykw@mb.infoweb.ne.jp ）
- ホームページ** <http://www.hamamatsu-pc.ac.jp/users/mori/bach-society/bach-society.html>



豊橋バッハアンサンブル

バッハを歌いたい、だけど毎週浜松まで出かけるのは無理・・・という豊橋在住の人達が集まって、1994年8月にできた合唱団が豊橋バッハアンサンブルで、いわば浜松バッハ研究会の分身です。毎週豊橋で練習し、月1回は浜松に出かけて、浜松バッハ研究会と一緒に、三澤先生の練習に参加しています。豊橋及びその近くにお住まいで、次回上演予定のバッハ「ミサ曲口短調」を歌いたい方はぜひ一度練習を見にお越しください。

練習場所 ・毎週金曜日 19:45～21:45 八町小学校音楽室（下地図、運動場南東角1F）
・月1回三澤先生の練習 主に日曜日13:00～17:00 浜松市積志公民館（前頁地図）ほか

会費 月額1500円

連絡先 安井研一（ 0532-47-0676 ）

